

令和6年9月立山町議会定例会一般質問・質疑通告概要

(令和6年9月12日)

○ 一般質問・質疑順番

1番	内	山	昭	議員
2番	佐	藤	康弘	議員
3番	岡	田	健治	議員
4番	堀	田	努	議員
5番	松	倉	勝実	議員
6番	髪	口	清隆	議員
7番	澤	井	峰子	議員
8番	後	藤	智文	議員
9番	平	井	久秋	議員

<一般質問>

1番 内 山 昭 議員

1 町営バス芦峯寺線を立山駅まで延伸するデマンド交通の実証事業について

町は来る10月中旬から1か月間、町営バス芦峯寺線を立山駅まで延伸し、デマンド交通の実証事業を行うと報告されました。延伸することにより、ケーブルカーの待ち時間などに観光客が立山博物館や関連施設などを訪れることができるようにし、観光需要を高める狙いです。

立山町営バス7路線のなかでも唯一五百石駅を経由しない飛び地路線として誕生し、運行本数は町内最多の1日往復10便、計20本と多くなっていますが、町内で唯一地元が年間150万円を負担しています。しかし、町から委託されていた富山地鉄が運転手不足を理由に運行を止めたため、運行経費が約3倍に膨らみました。

そこで町は2024年度、デマンドバスやライドシェアを含む地域公共交通計画の策定に乗り出し、芦峯寺線でも地元との協議を進めてきました。

国の補助を受ける実証事業は2期に分けて実施し、電話とスマートフォンから予約を受け付け、キャッシュレス決済も導入します。

デマンド運行は午前8時45分から午後7時15分とし、立山駅と芦峯寺エリアとの新区間の運賃は、立山線の区間運賃に配慮した600円で、旧区間は200円で据え置きます。

地元の丸新志鷹建設がコールセンターや一部運行を担い、自治会と共同体制を構築します。本格

実施を見据え現在の運行事業者のアルペン交通からもノウハウを学びます。

また、先月開かれた町地域公共交通活性化推進協議会の初会合で、委員でもある富山地方鉄道の新庄一洋専務は、同社立山線について「5年、10年先を考えると、地鉄だけの運営の在り方では現在のサービスすら維持することが難しい」と危機感を示し、「新たな鉄道運営のあり方について議論できるのではないかと期待している」と述べられました。

また、「県の会議でも立山線は観光路線の特性も持つ大切な路線として位置づけられている」とも強調され、「利用増に向けた活性化に特に強い意識を持つ立山町とタッグを組んで進めていきたい」とも話されました。従って、この度の町営バス芦峯寺線を立山駅まで延伸するデマンド交通の実証事業では立山黒部アルペンルート集客への一役を担う事業として大きく発展していくのではと期待をいたしますが、町長の思いをお聞かせ願います。

2 グリーンパーク吉峰の新コテージ5棟の利用状況と利用者の感想について

去る2月の立山町議会臨時会の町長提出議案で、グリーンパーク吉峰の指定管理者を4月1日より（その1）、（その2）に振り分けるとの提案があり、原案のとおり可決されました。

従来の株式会社たてやまは（その1）、（その2）は株式会社モンベルホールディングスを指定管理者とする内容でした。

参考資料の振り分け図面を見て、なるほどとある種期待感を抱かせるものでした。モンベルさんといえば、全国に何十万人以上の会員さんがおられ、情報のPRにかけては群を抜いていると伺っていたからです。

令和5年末に、グリーンパーク吉峰等運営改善調査業務の報告書がコンサルタント会社から届けられておりますが、コロナウイルス感染症真っ只中の令和3年、4年の売り上げの落ち込みは凄まじいもので、令和5年には若干戻したとはいえほど遠いものがあります。

そして課題の整理報告で、ゆーランドなど地域公共サービスとしての性質が強い施設もあれば、県外利用者のあるコテージなど収益の柱となる施設が混在しているので、後者の運営をアウトドアに精通した事業者へ委託するなど、魅力を高め集客を強化することで、グリーンパーク吉峰の利用者増につなげることを検討されたいとありました。

まさに的を射たアドバイスだったんだと思います。

ちなみにモンベル立山ベースキャンプでは

- (1) 新コテージ5棟が完成しました。
- (2) ロッジ10棟は既に活用されています。
- (3) 多目的広場（フリーキャンプサイト）があります。
- (4) 新オートキャンプ場は現在整備中です。
- (5) ビジターセンターは現在、宿泊やイーバイクの受け付けを行っており、アウトドア用品等の販売も模様替えを済ませ行っています。

これら以外が、従来どおりの株式会社たてやまとなります。グリーンパーク吉峰 新コテージは、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）を活用し、令和4年度より事業に着

手し、旧オートキャンプ場があった場所において、高規格コテージ5棟を整備しました。さる7月に竣工し、議員全員で見学してまいりました。

施設の規模は木造2階建、1棟当たりの建築面積92㎡・床面積90㎡、建築工事費5棟計2億9,800万円、敷地造成・道路舗装など諸々の工事費が計1億1,200万円、総事業費は計4億1,000万円となっています。

設備やゆったりとしたスペースはちょっとしたホテルを連想させる出来栄です。そこで最後にその後の利用状況と利用者の感想などについて分かる範囲でお聞かせください。

2番 佐藤 康弘 議員

1 高校再編について

高校再編議論に地域の声を反映させる、県教育委員会の「地域の教育を考える意見交換会」が、高岡・富山・新川・砺波会場で行われました各会場とも60人を切る参加者で、8,9割が高校教員でした。私は、富山及び新川会場に参加し、新川会場で「地域振興と教育は密着しており、13市町には高校を残すべきである。また、雄山高校の生徒の6割が富山市内からで今の学区を見直す必要がある。」と発言し、最後に「発端は、県教育委員会が、なんら説明・議論せずに突然、氷見、雄山高校の学級削減を決めたことが大きな問題となり、今回の意見交換会になっているが、どう高校再編に結び付くのか」と聞きました。県の教育長は「多くの意見を聞いて、最後は再編につなげたい」との答弁でした。秋には意見交換会の2巡目を開き、再編議論を具体的に進めていき、県総合教育会議での協議に反映させると言っていますが、意見交換会の参加者に工夫がなければ、何回開いてもあまり意味が無いと思う。最後は首長、県議会議員の意見が大きく反映されるのではないと思う。考えを問う。

2 新庁舎について

アカリエの竣工式、また、立山町70周年記念式典の日程も決まり、多くの関係者がほっとしています。庁舎の前には、書店の無い町と町中心に商店が無い事の解消のために、コンビニがオープンし、親子づれや学生の姿が見かけられ、大変ほのぼのとした風景です。これで、庁舎敷地内の環境は整ったわけで、あとはいつ新庁舎に向けて町長がゴーサインを出すか、多くの町民が関心を寄せるところです。大変答弁しにくいとは思いますが、いま話せる範囲で問う。

3 吉峰ゆーランドについて

ゆーランドは、平成7年にオープンし、早いもので約30年が過ぎこの間、多くの人達に利用され親しまれています。しかしながら、数年前からいろいろと修繕箇所が増えてきており、そのつど短期、長期の休館を余儀なくされて、利用者には大変不便をあたえています。特に配管系統の腐食

がはげしく深刻な状態になっています。漏水箇所を修理しても限りがありません。建築当時の材質ではしかたありません。近年は著しく進歩し腐食しない材質で配管が行われています。時期、材質、施工方法などを検討して根本的にやりかえるべきではないかと思う。どのように考えているのか問う。

4 昨年の豪雨災害について

- (1) 昨年の豪雨災害から、1年が過ぎました。全容を把握するのに多くの時間がかかったと思います。広範囲の復旧作業に長い年月がかかることはわかりますが、優先順位はあるのかまた、現在の進捗状況を問う。
- (2) 能登半島地震で県内に大きな被害が出て、全国でも豪雨、強風、地震災害が頻繁に発生していますが、このことが資材不足、資材高騰、また、働き方改革などが、復旧作業に影響を及ぼしているのか問う。

3番 岡田健治 議員

1 立山町の基幹産業である農業施策の強化支援について

- (1) 立山町の基幹産業としての農業への思い入れはひとことで言えば、どう捉えているか。
- (2) アルプス農業協同組合構成の市町村の施策は、地域の農業の再編整備だと思うが、近隣では大型圃場整備が進められている。中山間地農業は手厚い支援があるが、平坦地農業には「農家は生かさず殺さず。」の施策が続いている感がある。

滑川市・上市町・舟橋村を含め、この地域の基幹産業である農業振興策は、補助金や指導など稲作の認定農家や生産組合に集中されているにもかかわらず、稲作だけでは、経営していけないと果樹や畑作への転換や稲作を断念するなど方向転換する組織があります。この方向転換に、首長はどう思うか。

- (3) 平坦地農業の振興策は、稲作から畑作への変換は、寒々野菜や花卉、ハウス栽培での展開しか無いように思う。

そう展開していくには、かつてネギの一大産地であったような販路を拡大する施策の展開が望まれるが、園芸作物に特化して支援策の導入に、国の補助や個々の作物栽培組織に支援の施策は考えられるか。

2 過度な自動車依存による公共交通の衰退について

多くの問題を抱える富山地方鉄道のニュースが紙上を賑わせたことがあった。

国交省から線路の保守箇所の指摘事項の多さや保線工事中の死亡事故、或いは同僚議員から鉄橋の架け替えの提起等々、今年に入ってから赤字経営の実態や上下方式の分離が報道されるに至っ

ている。

新幹線開通時のローカル線分離による「あいの風」とやま鉄道が発足したように、地鉄も時代なのかもしれない。

上下分離は避けて通れないだろうと思う。早晩に沿線自治体に波及がくることが、全国ニュースでも取り上げられている。

軌道レールの所有・新型車両の導入支援に舵を切ることが立山町の生き残る道だと思うがどうか。国の補助制度の創設要望・制度の改革も含めて寺田立山駅間の線路の敷設替え・前後運転席の新型車両の導入等、早期に模索されたい。

3 超高齢化時代の少子化対策について

高度経済成長期のような人口増加を前提とした施策が全国で失敗しているように思う。現行策では行き詰まっていると思う。

昔は、認知症にならない段階で多くの人は亡くなったが、今は認知症になるまで長生きできる。つまり正気のままで死を恐れる必要がなくなった超高齢化の時代。死ねない時代に突入している。人生100年と言われて、自分らしく楽しむ。死生観は考えない豊かな現生を生きる思想になってきた。

一方で、結婚しない男女が増え、社会では「出会い」系アプリとか、マッチングアプリとか、町社協では「おむすびくらぶ」事業を展開中である。

その他いろんな方策が展開されているが、立山町の人口減対策は成功しているかどうか。また合計特殊出生率の改善の秘策はあるか。副町長の考えを問う。

4 学校施設の大規模改修の必然性について問う

地球温暖化が進んでいる。こんな環境下での教育現場の施設整備の進捗を問う。利田小学校では、教室の中に大柱がある。これでは柱の後の児童は、黒板が見えないばかりか先生も見えない。先生からも児童が見えない。これは、利田小学校に入学する児童が急拡大した時に教室を拡げるためにベランダを廃止し、外側に外壁とガラス戸を入れただけの状態ということは、教育長もご存知のことと思う。

- (1) 利田小学校のこの状態を改善する大規模改修が必要だが、時期はいつになるか。
- (2) 他の町立学校の計画の進捗状況を問う。
- (3) あわせて、体育館へのエアコン設置を早くする必要があると思うが、どうか。7月・8月の体育館の暑さは、尋常ではない。どの体育館の屋根も折板鋼板だと思うが、学校では、夏の使用を禁止していた。禁止では、施設の在り方が問われる。屋根は厚目の断熱材の重ねセッパンにするとか。強度が足りないと思われるが、二重屋根にして暑さ対策として太陽光パネルを設置してするとか、工夫をしてほしい。

5 利田・富立大橋廻りのバス路線について

現在、富山方面行きのバス路線は、石金経由と大泉経由の2路線がある。このさい、五百石から北上してモンベル前、シマヤを通り富立大橋を渡って富山駅へ至る、新しい路線を通せないか。これまで何度か質問があったと思うが、住民の声・要望は大きい。検討してほしい。

4番 堀 田 努 議員

1 五百石中心部開発について

現在、更地になっている旧藤木病院、八幡湯跡地の再開発が予定されている。この土地は立山町の中心であり、この場所の開発が立山町の活性化とまさしく直結することになる。土地の購入状況と、町の中心部としての構想を具体的に問う。

2 五百石中心部の空き家対策について

五百石中心部は空き家が多く見られる。管理不全空き家等の方策が施行され、空き家に対する対応が具体的になってきた。しかし住民は地区行事や伝統行事を積極的にかつ、伝統の次代への継承を責任をもって行い、地区の活性化に努めている。古本屋もでき、第3次産業のますますの普及が望まれる。

- (1) 空き家に対するポジティブな構想を問う。
- (2) すべてを町にゆだねるのではなく、住民として町とタイアップする行動も必要と思うが、それについての意見を問う。

3 五百石公民館建設について

現在の五百石公民館は、昭和54年に建てられ今に至っているが、劣化が激しく、老朽化が進んでいる。中心部公共施設再開発計画により、2026年から改築の予定である。間近な計画につき、設備等の要望を住民に聞いてみた。多かった意見の上位は、

- (1) ますますの高齢化に備えて一階に多目的ホールを。
- (2) 近所の人が気軽に集えるスペースの設置。
- (3) 調理室の設置。

であった。また今後は熱中症アラートで避難ができる指定暑熱避難所（クーリングシェルター）としての存在が望まれる。これらについての町の見解を問う。

4 コンプライアンス研修について

法令遵守の観点からの全職員参加のコンプライアンス研修が行われた。コンプライアンスには法

令遵守だけではなく、社会規範、社会道德、倫理観も含まれる。取りざたされているのはハラスメントで、主にパワーハラスメント（パワハラ）である。近隣自治体で最近も上部から職員へのパワハラが発覚し、社会問題になっている。最近、下から上へのパワハラ（逆パワハラ）が一般社会で問題になっている。パワハラを意識するあまり、部下を叱れない。物も言いづらくなる。そのあげくに強く突き上げられる。こういう事態が多く発生していると聞く。「しかる」と「怒る」の区別を明確にし、全職員参加のコンプライアンス研修を行ってほしい。また、一時的なものではなく、継続的に行ってほしいと思うが、見解を問う。

5番 松 倉 勝 実 議員

1 町の交通システムについて

- (1) デマンド交通について進捗と問題点について伺う。
- (2) 前回、ライドシェアについても伺ったが、考えてないとの回答だった。新聞報道にもあったように状況が変わってきている。再度、ライドシェアの検討をして欲しい。
- (3) 無人バスの運行も検討してほしい。

2 有害鳥獣対策について

熊対策としてカメラの増設とA Iのマッチングでカメラが熊、サル、イノシシを捉えるとA Iが、対策と周知を自動的に示し、警察、消防、自衛団、等々が動く。そして、近隣住民への周知を図るシステムを検討してほしい。

3 道路の管理について

町の道路管理について伺う。

- (1) 町道の管理は道路幅などで違いがあるのか。
- (2) 歩道を持っている町道では、サイドの縁石には、等間隔で排水用の穴が開いている。ところがこの穴が、砂利や土で排水を妨げている。又、草が伸びて排水を妨げている。特に、集団登校児童の歩行時に、雨天時排水がスムーズに行われなため、車の跳ね水を受けている。この砂や土、草の除去をお願いしたい。
- (3) 年間、何度道路の視察と上記の除去を実施するのか。
- (4) 道路リポーター制度の効果について。

以上、見解を伺う。

5番 髪 口 清 隆 議員

1 学校のプールについて

今年、立山町内において小学校プールの開放は、当初から猛暑が予想され熱中症対策等の為、中止された。子ども達の安全を最優先に考えての事だと、理解している。

しかし、「プールに入りたかった」「暑いからプールに行きたい」など、子ども達の声も聞かれた。

県内では、中止にした自治体・比較的涼しい午前中へ時間を変更して行った自治体・学校ごとに対応を任せている自治体など、対応は様々だった。

- (1) 来年度以降、今年度同様に猛暑予想時は中止するのか、又は、対策を講じて開放するのかどうか町の考えは。
- (2) ポンプの故障やプール内外の塗装の剥がれ等、プール施設の経年劣化は進み、今年みたいに使用しないと更に老朽化が進むと思われる、今後の対応は。

2 農地の災害復旧について

昨年の豪雨災害以降、国の激甚災害の指定を受け、査定も終わり復旧に向け取り組んで頂いている。当初から復旧には3年はかかるとの説明もあったが、当事者の中には高齢者もあり「何年もかかるなら止めようか」「いつになったら田んぼできるのかはっきりして欲しい」などの話も聞かれる。今後の見通しは。

3 ライドシェアについて

昨年12月定例会において、ライドシェアの導入について質問したところ、「ライドシェアをはじめデマンド交通や自動運転バスなど、町にとって最も適している新たな移動手段について、専門家の意見も踏まえながら検討したい」との答弁があった。8月26日に開催された町公共交通活性化協議会で、町営バス芦峠寺線のデマンド交通の実証事業を行うとの報告があり、今後に期待したい。

そこでライドシェアである。一度にあれもこれも実施するのは厳しい状況だが、バス停まで遠い方や、足腰の弱い高齢者の方のにとっては、利便性に優れている。

そして国交省は9月4日、運航できる曜日や時間帯を拡大するとした。

これまで十分検討された中で、今後の方向性は。

7番 澤井峰子 議員

1 シニア世代の居場所づくりについて

町民体育館の解体によって、フレッシュテニスなどこれまで利用していた方々から、活動継続ができなくなると心配の声を頂いている。

- (1) 「アカリエ」の多目的ホールではサークル活動やフレッシュテニスにも活用できると「かわらばん」に説明書きがあるが、実際、町民体育館を使用していた方々への対応・周知はどの

ようにしていくかを伺う。

- (2) 上記のようにシニア世代が気軽にサークル活動等が継続できる環境づくりは子育て支援と同様に町にとっても重要なのではないかと考える。

平日の日中中心に「アカリエ」がシニア世代にとっても健康づくりの居場所となるよう、使用施設料金にシニア設定や「たてぽ」での健康ポイント等があってもいいのではないかと考えるが町の見解を伺う。

2 認知症対策について

政府は9月2日に「認知症施策推進基本計画」案を有識者会議に示し、共生社会の構築にむけた「新しい認知症観」が打ち出された。

厚生労働省からは軽度認知障害も含めると今後、1千万人を超える推計を示しており、誰もがなりうる時代であるがゆえに自分ごととして理解を深める重要性を指摘している。

- (1) 国は基本計画案を元に、今後、2029年までの計画を策定されるが、この国の動向を受けた町の認知症施策の考え方と方向性を伺う。
- (2) これまで認知症サポーターの育成を町としても取り組んで頂いているが、「新しい認知症観」に基づいたサポーターの再教育が重要となってくる。

例として、福岡市で導入されている「ユマニチュード」というケア方法が、介護する側、される側にとってコミュニケーションが深まり、介護負担の軽減につながっている取り組みがある。また他の自治体でも、「ユマニチュード」のケア方法を家族はじめ、介護職員や地域、消防団といった幅広い分野で研修会を実施し、認知症になっても安全に安心して生活を営めるようになったとの事例がある。

是非、町としても導入して頂きたいと考えるが、町の見解を伺う。

3 投票率の向上について

目前に、県知事選挙、そして衆議院議員選挙が控えている。県政・国政では、なかなか投票率が伸びない現状のなか、若い世代に、選挙の大切さ、大切な1票を生かしてほしいと考える。

- (1) 以前から取り組んでいるマイナンバーカードを活用した投票への取り組みは、どのようなスケジュールで進められているのかを伺う。
- (2) 若い世代が投票しやすい環境として、他市では大型ショッピングセンターで期日前投票を期間限定の数日で実施している。県政・国政であれば投票できる期間も長いことから、人が集まる土日などを活用した取り組みを試してはと考える。

わが町では、「シマヤ」等に協力を得て、期日前投票の期間中に数日、投票できる環境を実験的に実施してはと考えるが町の見解を伺う。

4 带状疱疹ワクチン助成の拡充を

令和5年度よりスタートした带状疱疹ワクチンの助成費の取組について、県東部で取り組んでいる他市町を調べると不活化ワクチンの助成費が、上限1万円2回としている。

不活化ワクチンは1回2万前後を2回接種するため、負担も大きい。町の現行では、上限5千円が2回となっていることから、上限1万円に拡充して頂きたいと考える。町の対策を伺う。

8番 後藤 智文 議員

1 新型コロナワクチンについて

新型コロナワクチンは、今年10月から有料化になる。高齢者や基礎疾患のある人を重症化から守るためにも、新型コロナワクチン接種は有効な予防手段である。コロナワクチン接種を全額補助する自治体もあり、町でも補助を検討すべきではないか。

2 高齢者の補聴器について

耳が聞こえないと、人とのコミュニケーションが取れず、段々と家に引きこもってしまう。フレイル予防にもつながるため、助成をする自治体は増えている。補聴器助成をすべきではないか。3月議会で質問したところ、関係機関と協議し、検討をしていくということだったが経過を問う。

3 国民健康保険税について

(1) 1世帯当たり1万円の減税を

物価高騰が続く今、生活は大変である。高いと言われる国民健康保険税は、軽減を受けている世帯が約6割にのぼる。わずかな収入から保険税を支払っているのがわかる。基金の3億円は3年間そのままであり、1世帯当たり1万円の減税をして生活を応援すべきではないか。

(2) 子育てに逆行する均等割の減免について

健康保険にはない均等割は、国保を払う人にとって重荷になる。就学時までは半額になっているが、子育て支援として18歳までの均等割をなくすか半額にすべきではないか。

4 給食の無償化について

県は子ども医療費について、小学校までの補助を決めた。インフルエンザの補助減を考えても町の財政は助かる。その財源を使って給食費の無償化に向けて、その一歩として給食費半減など考えられないか。

5 空き家について

0円空き家バンクが上市町で行われて3年目を迎え、18件が契約を終え、地域再生に寄与して

いる。町でも空き家バンクはネット上に掲載されているが0円空き家はない。今後、この制度を取り入れていく考えはないか。

6 学校体育館の空調設備について

地球温暖化のためか夏の暑さは異常を極めている。そんな中、子どもたちは体育をしたり、部活をしたりしている。過日、親子議場見学会があり、20人の中4人の子どもたちが学校にエアコン設置をと求めた。確かに設置費用や維持費に費用は掛かるが、子どもたちのため、災害時の被災者のためにも計画的に体育館の空調設備設置を考えるべきではないか。

7 校内フリースクールの設置について

不登校児の受け皿として、現在、適応指導教室があるが、学校と適応指導教室の間に校内フリースクールがあると言われている。以前にも質問したが、その時よりもっと多くの校内フリースクールが設置されてきた。文部科学省も設置に前向きになっている。町でも設置を考えるべきではないか。

8 放課後児童クラブ（学童保育）について

- (1) 放課後児童クラブ（学童保育）の入所について、2015年から対象児童を6年生まで拡げるようになって9年。民間の放課後児童クラブ（学童保育）は6年生まで受け入れているが、公営学童保育は未だにない。6年生まで受け入れる計画をたてるべきではないか。
- (2) 釜ヶ淵、立山両小学校には学童保育はなく、放課後子ども教室だけである。これだと夏休みなど長期休業中は、子どもたちはかぎっ子になってしまう。子ども家庭庁は来年度から、サマー学童保育に補助金制度を創設する方針を出した。子どもたちのためにサマー学童保育を設置すべきではないか。

9 消防について

災害時などの拠点になる消防団詰め所などは改築されてきている。今後、改築が求められている場所は、消防庁舎、立山分団、新川分団の両詰め所だが、計画はどうなっているか。

10 雑草対策について

- (1) 立山インター敷地内や付近の道路の中央分離帯は、夏になるとたくさんの草が生い茂っている。観光客からすれば嫌な気持ちを抱き、観光に力を入れている町のイメージが悪くなるのではないかと。計画的に伐採されていると思うが、時期を考えるべきではないか。
- (2) 民間の土地なので難しい面はあるが、「板はし寿司屋」北側の雑草は大変ひどく、人の背丈

ほどの物が広い範囲で生い茂っている。何とかならないかという声があるが手立てはないものか伺う。

11 町総合公園利用料について

公園施設利用料が値上げされる条例が出ている。値上げ幅が大変大きく、町民のスポーツへの参加に影響を与えかねない。公費負担割合の増加率より使用料の値上げ率が多いように思われ、町民に対して丁寧な説明がなされるべきと思うがどうか。

9番 平井久秋 議員

1 家庭ごみ有料化対策について

家庭ごみ回収の有料化は「避けては通れない問題」との認識を富山市議会の6月定例会で副市長が示した。今後有料化の検討を本格化する方針とのことだが、富山市の判断が当町にも影響すると以前の答弁でいただいた。

当町のごみ対策は進んでいると思われるが、

- (1) 令和4年4月に策定された「一般廃棄物処理基本計画」による2023年の可燃及び不燃物の一人当たり中間目標の指数は達成されているのか。
- (2) ごみ処理の将来についての「町の役割」で7つ挙げられているが、その達成度をどのようにとらえているか。
- (3) 特に「有料化の研究」について、現在までの状況でどのように考えているのか。
- (4) 有料化以前に、ごみの減量化が必要なことから意識向上のために、定期的に広報などで特集を組んで周知すればと思うが、いかがか。

2 消防について

- (1) 救急車有料化について

三重県松阪市で、救急車の有料化が6月から始まった。また茨城県も12月から県全域で実施する予定である。背景は、救急出動の増加で緊急性の高い現場への到着が遅れたり、病院での受入れに支障をきたす恐れがあるということだ。そこで

- ① 昨年の出動件数、搬送人員は平成20年度以降、最も多くなっている。今年のこれまでの件数は昨年同期に比べてどうなっているか。
 - ② そのうち、入院が必要な中等症以上の割合はどのくらいか。
 - ③ 現在までの出動で、有料化の背景にあるような事象はこれまでにあったか。
 - ④ 救急車の有料化について、今後、研究、検討する用意はあるのか。
- (2) 中型免許取得に補助はないのか

過去2回質問しているが、各分団に配備されている消防ポンプ車は、平成29年3月12日以降取得した普通免許証では運転できないが、現在、その対象となる消防団員はどのくらいいるのか。また運転可能となる中型免許取得に補助の検討をするとのことだったが、現在までの状況を伺う。

3 遊休町有地を有料農園に

管理されていない民間の遊休地が多く見受けられる中、遊休町有地の状況を伺う。

- (1) 遊休町有地は現在、何カ所あるのか。またその管理状況（草刈りなど）はどのようなになっているのか。
- (2) 遊休町有地の有効活用として、近隣の住民を対象に、自家栽培程度とした有料農地として貸し出すことはできないか。わずかながらも町の収入にもつながると思うが、いかがか。

4 総合公園にE V充電器の設置を

- (1) 令和2年3月に質問したが、設置について国の補助対象に観光地や行楽地は対象外とのことで、設置は考えていないとのことだった。しかし、この7月に吉峰のモンベル立山ベースキャンプ前の駐車場にE V充電器が設置されている。その経緯を伺う。
- (2) また、コロナ後にE V環境が大きく変わり、普及のため観光地や行楽地に充電設備されているところが多くなった。であれば、より一層の利用客増大のために総合運動公園にも設置すべきと思うが、いかがか。

5 冬のイベントを町なかで

吉峰での冬のイベント、「鍋自慢大会」がなくなって久しい。コロナ禍でなくなったと思われるが、町からの補助金の大半が、会場の除雪代に消えてしまったのも原因と聞く。吉峰の指定管理者も変わり、町としては、町なかの活性化に施策を立てる状況になっており、この冬のイベントを吉峰から町なかへ移動し、四季を通じて町なかを盛り上げるべきと思うがいかがか。